

6 - 13 上宝における最近の地殻変動 (1978年5月～1988年10月)

Ground Deformations Observed at Kamitakara (May, 1978 - October, 1988)

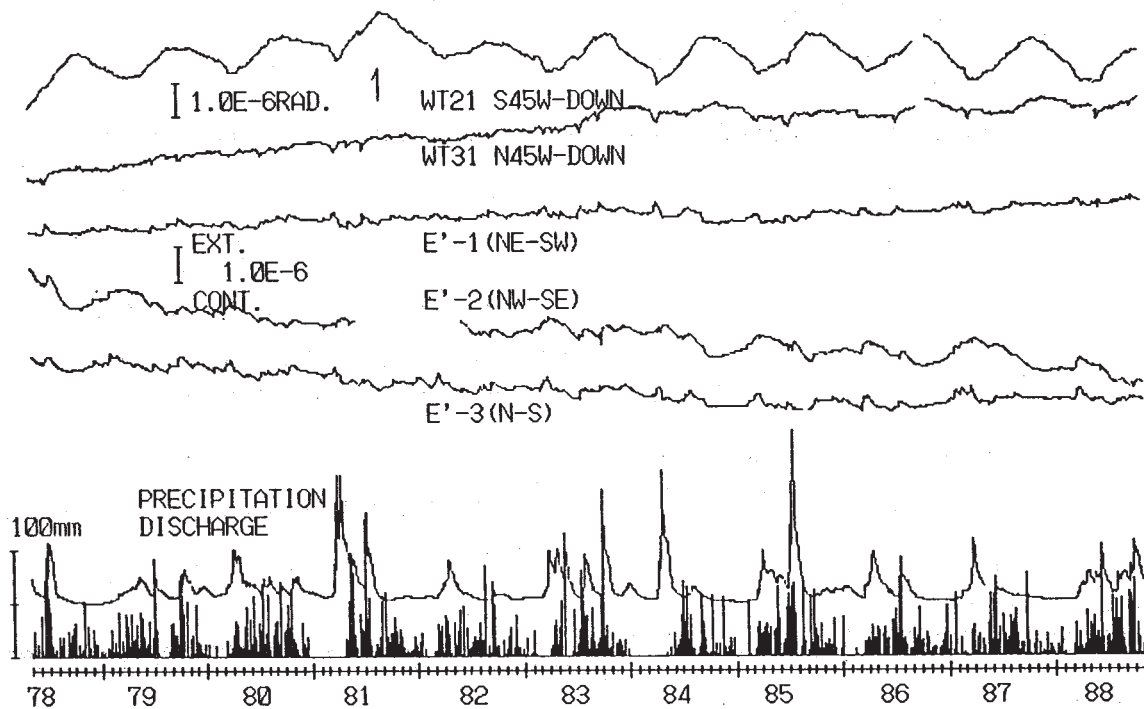
京都大学防災研究所

上宝地殻変動観測所

Kamitakara Crustal Movement Observatory
Disaster Prevention Research Institute, Kyoto University

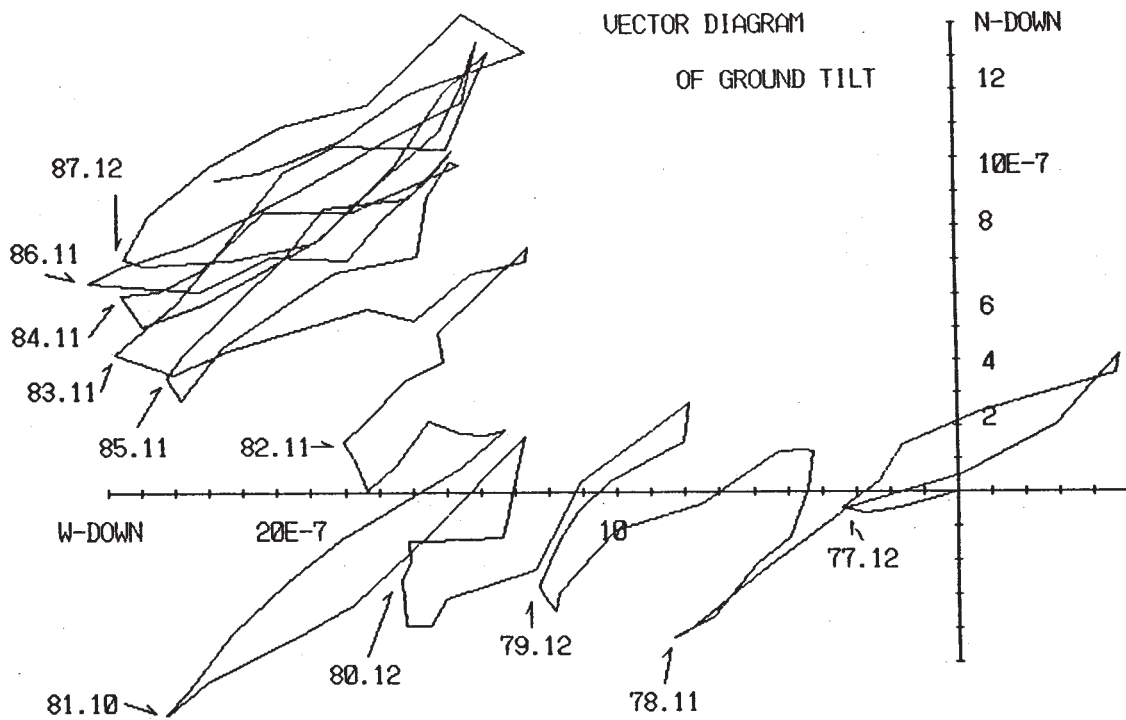
第1図に、1978年5月から1988年10月までの、上宝における歪変化、傾斜変化の日平均値と坑内湧水量および降水量を日単位で示す。第2図は、1977年8月28日からの傾斜変化を、30日間の平均値を用い30日毎にベクトル図で表わしたものである。この10年間の歪、傾斜の年変化率は 3×10^{-7} 以下に収まっている。第1図ならびに第2図に見られるように1983年中頃からN45°W方向の傾斜変化速度が小さくなっている。歪のNE-SW成分が1983年後半から約1年間伸びから縮みに転じているが、それ以降は再び伸びに転じている。歪のN-S成分は1984年までは縮みであったが、1985年以降は歪変化速度が非常に小さくなっている。

上宝観測所以外の地殻変動観測所の同時期の歪、傾斜変化との比較により、このような変動が局所的なものか、あるいはより広域の地殻変動を反映したものかを検証してゆくことが今後の課題である。



第1図 上宝における歪変化, 傾斜変化, 坑内湧水量および降水量
(1978年5月~1988年10月)

Fig. 1 Daily values of crustal strains observed with three components of strainmeters (E'-1, E'-2 and E'-3), crustal tilts observed with two components of water-tube tiltmeters (WT21 and WT31), discharge of underground water, and precipitation (May, 1978 - October, 1988).



第2図 傾斜ベクトル図

Fig. 2 Vector diagram of ground tilt.